



レポートとタイムゾーン

- [レポートとタイムゾーン \(1 ページ\)](#)

レポートとタイムゾーン

Unified Intelligence Center では、サーバ、データソース、レポート、ユーザの4つのタイムゾーンを構成できます。

サーバ

サーバのタイムゾーンは、インストール時にインストールウィザードで定義され、レポートには影響しません。サーバ管理者は、CLI コマンド `show timezone config` および `set timezone zone` を使用して、サーバのタイムゾーンを表示および変更できます。詳細については、<https://www.cisco.com/c/en/us/support/customer-collaboration/unified-intelligence-center/products-maintenance-guides-list.html> にある『Cisco Unified Intelligence Center 管理コンソールユーザガイド』を参照してください。

データソース

データソースのタイムゾーンは、データソースを構成するときに定義されます。これがデータベースのタイムゾーンです。

レポート

レポートのタイムゾーンは、レポートフィルタで定義されます。

コールセンターが複数のタイムゾーンにまたがっており、複数のレポートを比較したい場合には、絶対的な日付範囲と特定の期間を使用して、履歴レポートを実行します。

ユーザ

ユーザのタイムゾーンは、ユーザプロファイルで設定されます。

たとえば、ニューヨークにいるユーザが、中国オフィスの同僚によって実行されたレポートの確認を依頼されたとします。ユーザは、[ユーザプロファイル (User Profile)] ページにアクセ

スして同僚と同じタイムゾーンに変更し、同じ絶対的な日付範囲を使用してレポートを実行します。

タイムゾーンの考慮事項

システムは、ユーザが入力した時間固有のデータをユーザのタイムゾーンにローカルとして扱い、フィルタクエリの構築時に、この時刻をデータソースのタイムゾーンに変換します。

また、データソースから取得した時間固有のデータをデータソースにローカルとして扱い、レポートデータに日時を表示する前に、この時刻をユーザのタイムゾーンに変換します。

ユーザのタイムゾーンまたはデータソースのタイムゾーンが設定されていない場合、システムは **Unified Intelligence Center** サーバのタイムゾーンを使用します。システムでは、データソースレベルでのタイムゾーンの正規化が発生した後にのみ、これらの変換が実行されます。



(注) 週次レポートと月次レポートのスケジュールは、サーバのタイムゾーンではなく、データソースのタイムゾーンに基づきます。つまり、週と月の境界は、データベースのタイムゾーンにおける、週または月の最初および最後の日の午前0時となります。

次の例では、ユーザがフィルタに日時の値を入力したとします。タイムゾーンの設定に応じて、システムによってフィルタクエリのタイムゾーンが下記のように変換されます。

フィルタ値 = **2010/1/1 12:00:00 AM**

ユーザのタイムゾーン	ユーザのタイムゾーン	データソースのタイムゾーン	データソースのタイムゾーン
設定されている場合 (+11 GMT)	設定されていない場合 (Cisco Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーンを減算)	設定されている場合 (+2 GMT)	設定されていない場合 (Cisco Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーンを加算)
2009年12月31日15時00分00秒 (木曜日) EET 元の時刻 - ユーザのタイムゾーンオフセット (+11 GMT) + データソースのタイムゾーン (+2 GMT) 元の時刻に -9 (-11 +2) 時間を加算	2009年12月31日20時30分00秒 (木曜日) EET 元の時刻 - Cisco Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーン (+5.30 GMT) + データソースのタイムゾーンオフセット (+2 GMT) 元の時刻から 3.30 (-5.30 +2) 時間を減算	2009年12月31日15時00分00秒 (木曜日) EET 元の時刻 - ユーザのタイムゾーンオフセット (+11 GMT) + データソースのタイムゾーン (+2 GMT) 元の時刻に -9 (-11 +2) 時間を加算	2009年12月31日18時30分00秒 (木曜日) IST 元の時刻 - ユーザのタイムゾーンオフセット (+11 GMT) + Cisco Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーン (+5.30 GMT) 元の時刻から 5.30 (-11 +5.30) 時間を減算

<p>2009年12月31日18時30分00秒 (木曜日) IST</p> <p>元の時刻 - ユーザのタイムゾーンオフセット (+11 GMT) + Cisco Unified Intelligence サーバのタイムゾーン (+5.30 GMT)</p> <p>元の時刻から 5.30 (-11+5.30) 時間を減算</p>	<p>2010年1月1日00時00分00秒 (金曜日) IST</p> <p>元の時刻に 0 (-5.30 +5.30) 時間を加算</p>	<p>2009年12月31日20時30分00秒 (木曜日) EET</p> <p>元の時刻 - Cisco Unified Intelligence サーバのタイムゾーン (+5.30 GMT) + データソースのタイムゾーンオフセット (+2 GMT)</p> <p>元の時刻から 3.30 (-5.30 +2) 時間を減算</p>	<p>2010年1月1日00時00分00秒 (金曜日) IST</p> <p>元の時刻に 0 (-5.30 +5.30) 時間を加算</p>
--	---	--	---

次の例は、日時の値を持つデータベースを示しています。タイムゾーンの設定に応じて、システムによってレポートデータのタイムゾーンが下記のように変換されます。

データベース値 = 1/1/2010 12:00:00 AM

データソースのタイムゾーン	データソースのタイムゾーン	ユーザのタイムゾーン	ユーザのタイムゾーン
設定されている場合 (+11 GMT)	設定されていない場合 (Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーンを減算)	設定されている場合 (+2 GMT)	設定されていない場合 (Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーンを加算)
<p>2009年12月31日15時00分00秒 (木曜日) EET</p> <p>元の時刻 - データソースのタイムゾーンオフセット (+11 GMT) + ユーザのタイムゾーン (+2 GMT)</p> <p>元の時刻に -9 (-11 +2) 時間を加算</p>	<p>2009年12月31日20時30分00秒 (木曜日) EET</p> <p>元の時刻 - Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーン (+5.30 GMT) + ユーザのタイムゾーンオフセット (+2 GMT)</p> <p>元の時刻から 3.30 (-5.30 +2) 時間を減算</p>	<p>2009年12月31日15時00分00秒 (木曜日) EET</p> <p>元の時刻 - データソースのタイムゾーンオフセット (+11 GMT) + ユーザのタイムゾーン (+2 GMT)</p> <p>元の時刻に -9 (-11 +2) 時間を加算</p>	<p>2009年12月31日18時30分00秒 (木曜日) IST</p> <p>元の時刻 - データソースのタイムゾーンオフセット (+11 GMT) + Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーン (+5.30 GMT)</p> <p>元の時刻から 5.30 (-11 +5.30) 時間を減算</p>

<p>2009年12月31日18時30分00秒（木曜日）IST</p> <p>元の時刻 - データソースのタイムゾーンオフセット (+11 GMT) + Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーン (+5.30 GMT)</p> <p>元の時刻から 5.30 (-11+5.30) 時間を減算</p>	<p>2010年1月1日00時00分00秒（金曜日）IST</p> <p>元の時刻に 0 (-5.30 +5.30) 時間を加算</p>	<p>2009年12月31日20時30分00秒（木曜日）EET</p> <p>元の時刻 - Unified Intelligence Center サーバのタイムゾーン (+5.30 GMT) + ユーザのタイムゾーンオフセット (+2 GMT)</p> <p>元の時刻から 3.30 (-5.30 +2) 時間を減算</p>	<p>2010年1月1日00時00分00秒（金曜日）IST</p> <p>元の時刻に 0 (-5.30 +5.30) 時間を加算</p>
--	---	--	---